

令和元年度 第10回「まちづくり会議」概要 河内地区

日 時：令和元年8月20日（火） 19：30～20：45

場 所：かわち保健センター

参加団体等：河内区長会、河内地区団体代表連絡協議会、体育協会河内支部、社会福祉協議会、河内消防団、河内小学校PTA、河内子供会育成委員会、河内老人会、有識者代表など

発言【1】

SDGsについて

①白山市民の認知率について

②担当窓口について

③2030年の目標時には白山市、白山ろくはどのようになっているのか

【市】

①調査を実施したことはありませんが、第2期まち・ひと・しごと総合戦略策定にかかる市民アンケートで盛り込む予定をしています。全国的に認知度が低いことから白山市も同様と考えており、今後とも普及啓発に努めてまいります。

②SDGsを推進する担当課として企画課がありますが、全庁体制でSDGsの推進を実施しています。

③本市のSDGs推進の取り組みについての計画書「SDGs未来都市計画」を作成しており、その中で、白山手取川ジオパーク及び白山ユネスコエコパークの理念に基づいて、山間部において経済発展や豊かな生活を実現し、その成果を白山市全体に還元されることを目指しています。

これからも、大学やNTTドコモ等の企業と連携しながら、大学が知恵を出し、白山市が国に新たな提案して、企業が実践していくことが、将来につながっていくものと考えています。

また、今後は、「SDGs未来都市計画」で想定している、子育て環境の充実と働き方改革の両立、女性が家庭や子育てを両立させながら仕事に活躍できる場の構築など、女性の多様な雇用形態の元での活躍の実現にも寄与する、テレワーク等の導入についても検討していきたいと考えています。

発言【2】

空き家や別荘の民泊利用について

【市】

民泊は、観光庁が進める訪日外国人の誘客に併せ、厚生労働省が旅館業法の特例を定めたものであり、民泊は宿泊者数の増加に有効な手段であると考えます。しかしながら、民泊の他、旅館業法に基づく簡易宿泊営業などでも、公衆衛生等においてトラブルも予想されることから、所管する石川県（保健所）や周辺自治体と連携した取り組みを進めることとしています。

また、空き家対策の問題もあると考えています。市には貸したいのか売りたいのかという情報がないため、地域の皆さんにもご協力をお願いしたいと考えており、空き家所有者に空き家バンク制度のパンフレットを送付することで、空き家の利活用の周知を図り、隣家と合わせた利活用ができるよう、市も地域と一緒に空家解消に取り組んでまいります。

発言【3】

水道水の濁りについて

【市】

原因については調査を行いました。

今後は、白山ろく水道施設統合整備事業の中で、別途水源を活用する計画をしています。上水道化を15年かけて整備しながら、順次、松任・美川・鶴来の水道料金と同じ料金に統一する予定であり、激変緩和で5年間かけて統一化してまいります。白山ろくの水道料金は高くなりますが、石川県で2番目に安い料金です。今後も、安全で安心な水を提供してまいります。

発言【4】

①都市計画マスタープランのスケジュールについて

②白山ろくに対する投資についての考え方

【市】

①都市計画マスタープランは、まちづくりの理念や、地区別のあるべき市街地像を示すとともに地域別の整備課題に応じた整備方針、都市施設の計画等を定める計画です。令和2年からの新たな10年間の計画ですが、個別具体の施策について実施時期や整備の期限を定める計画ではなく、また記載しているもの全てを確実に10年以内に行うことを確約するものでもありません。具体的に整備の位置や規模が決まっていない土地利用や施設についても、整備の必要性が生じた段階で事業が実施できるよう、概ねの位置や整備の可能性について計画に位置付けるものです。

白山ろくは都市計画区域外ですので、都市計画法に基づく規制はかかりませんが、白山ろく地域の地域特性を踏まえたまちづくりの方針を盛り込む予定です。

②豊かな自然に抱かれた白山ろく地域は、平野部に多大な恩恵を与えおり、有利な起債を有効活用し、生活環境の保全とともに地域経済の活性化に努めています。

施策実施に際しては、面積規模や人口規模を基準に投資額や優先度を決めているわけではありません。限られた財源の中、中期財政計画等で必要性や優先度について検討しながら、今後とも計画的な予算執行、財政運営に努めてまいります。

発言【5】

白山登山について（交通、観光誘客）

【市】

登山ピーク時の交通緩和、安全確保及び自然保護のため、中飯場までの一般車両の乗入は考えておりません。これまでどおり、登山ピーク時における市ノ瀬～別当出合間のシャトルバス（マイカー規制）を運行し、全国に誇れる山として、綺麗で魅力ある白山を楽しんでいただきたいと思います。

また、登山客についても、室堂の宿泊施設や水洗トイレ、水問題等が解決すれば増加が期待できます。

白山は、ジオパークの見どころの一つであり、魅力ある観光資源です。引き続き、HPやパンフレット、イベントなどを通して、広く魅力を発信してまいります。

発言【6】

擁壁の崩落について

【市】

県営ほ場整備事業の中での補修、もしくは、多額の地元負担が発生しても良い場合は単独事業としても可能であると考えており、地元負担が少なくするためには、令和4年度の採択を目指す、県営ほ場整備事業の中での補修が適切であると考えています。

発言【7】

避難小屋について

【市】

市が管理している登山道においては、避難小屋の設置運営は原則行っていません。避難小屋を設置したとしても、維持管理が問題になります。

登山道については、ジオトレイルのコースを利用して、登山道として残していけば、一般の人でも利用できるようになると思いますし、一度草を刈るだけでも環境が

よくなると考えています。

現在、鶴来から河内地区周辺では奥獅子吼、宿の岩（板尾）、口三方（下折～板尾）方面登山道の草刈りを委託していますが、今後は、業務範囲や回数についても検討してまいります。

発言【8】

サルの対策について

【市】

市では、サルの動向調査や、猟友会による巡回捕獲、モンキードックによる追い払いを実施しており、今後とも猟友会と連携し捕獲の強化を図ってまいります。

また、電気柵等の侵入防止柵設置等に対する、補助の拡充を行っています。

更に現在、石川県立大学で実施しているサル生態調査に協力をしているほか、獣害対策にドローン等を活用できないかを検討しているところであります。